

# NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

JIA 長野県クラブ



Vol.73  
2007  
03.31

## 「建築祭の夜は更けて」

新たなシナリオで実施された建築祭も成功裏に無事終了出来、JIA長野県クラブの底力を見た思いです。自分も過去2年間の裏方を経て、今回審査員として学生に対しても自分にも厳しい立場で二日間参加し、良い体験を得る事が出来たと思います。

さて、別室審査となった最終選考のエピソードを少しばらす事をご了承頂きたい。

大学の部銅賞の『都市の休息』S君はプレゼンテーションが始まる前から鼻息が荒い。ゲスト審査員の国広ジョージ氏にも食って掛かる始末だが、当のジョージ氏は「気風が良い」と痛く気に入った様子。S君の怒りの矛先は都市の真ん中に何も用途の無い休憩の場を提案しつつ、何故か商業施設も取り込んで妥協した自分自身へと思うが、反面設計者としての将来性も高く評価された。専門学校の部奨励賞のT君の『辿り着く場所』のバリ風の模型は評価に耐えないが、プラン良し、家具もデザインした折り畳みのボードも上々で、採点6位から大躍進。

夜の懇親会で宮本先生は「建築とは内から湧き出て来る

JIA長野県クラブまちづくり委員長 新井 優

モノを血の滲み出るような努力で形にしていく事」と述べられた。今回の出品作の中にも、パネルとしての表現力は上手いが、人間のスケールで煮詰め不足の作品が多く見受けられた。また、全体的に発想勝負の最近の都市的形態のコンセプト案が多い中、今後は泥臭く重厚な地域色の濃い提案も期待したい。

石井修先生の講演『緑をまとう建築』は特に学生たちにはタイムリーで、残り少ない戦前生まれの巨匠の生き方に触れる事が出来たと思う。

建築祭では長野に泊まりとなつたが、久しぶりにメンバーで様々な話合いが出来た事も収穫であり、今後の活動に活かす事が出来ると思う。志が同じならば方向性の少しの違いは理解し合う努力がお互い必要ではないだろうか。そこが業界団体ではない地方の建築家の集まりのJIA長野県クラブの良さと思えば、美味しいお酒も飲めるってもんでしょう？



長野県学生設計コンクール審査会場



JIA長野県クラブ会員作品展



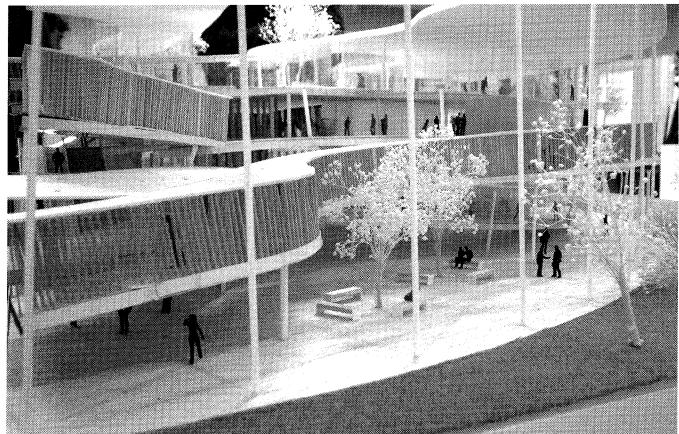
15回記念「文化講演会」

3月18日(日)・19日(月)の二日間「建築祭」と名打ち、第16回「長野県学生卒業設計コンクール」・15回記念「文化講演会」・「会員建築作品展」の合同開催が、長野の中心市街地活性化事業により出来た「生涯学習センター」トイーゴ(SBC信越放送と並ぶ)で開催されました。コンクールには、ゲスト審査員に国広ジョージ氏・上山寛氏(新潟)・米田雅夫氏(群馬)・長田孝三氏(山梨)の各クラブ代表審査員、そして「文化講演会」には関西から石井修氏をお招きしての大イベントでした。二日間のべ150人以上の参加者・見学者でテレビニュースになるほどでした。会員・賛助会員そして大勢の学生の皆さんがスタッフとなり大活躍、JIA長野県クラブ一丸となる大成功の活動事業でした、その様子を特集致しました。審査結果は、5月の総会で行われる表彰式の様子と共に、次回の会報にてお伝えする予定です。

# 特集「建築祭」



審査員の表情



コンクール作品模型



「文化講演会」石井修先生

## 「会員作品展」に出展して 小宮山 直樹(小宮山建築設計事務所)

前日まで迷っていました。行こうか、行くまいか、当日の朝、意識が低いなと思いつつも間に合わせてパネルをつくり、自作の模型を数点持って会場に出向きました。雪の降る寒い日でした。寒いせいなのか、久しぶりにJIAの行事に参加する恥ずかしさ?からか背中は少し丸まっていました。会場に入ると展示のミーティング中、皆、真剣な表情。久々に味わう空気に新鮮を感じました。展示作業が始まり、進んで手を出せないまま居場所を探して右往左往。結局、自身の物のみ展示し居場所を見つけられないまま会場を後にしました。外はまだ雪、顔に冷たくあたりました。翌日回収の為会場へ。整然と展示され、目を奪われる作品ばかり、皆さんに感謝。こうならないとという焦る気持ちを押さえて自身の自然体を崩さず、前向きに仕事しようと思った日でした。



審査風景



審査風景



講演会風景

## 卒業設計コンクール公開審査会に参加して 勝山 敏雄(かつやま設計工房)

初めて設計コンクールの審査会に参加させて頂きました。普段学生と接する機会が少ないので、ある意味で刺激になるところが多くありました。今流行りの形態に敏感な大学生の作品、地球環境をテーマにした専門学校生の作品、学校の色が頗著に現れている高校生の作品等、多くの作品を自分も審査員になつたつもりで見させていただきました。審査方法は、得点のみで決定されるだけではなく、審査員の方の意見交換によって、最終的な順位が決まり、点数の評価以外も加味されたことは非常に良かったと思います。学生にとっても、外部の方の意見や考えを聞く機会が得られたことは彼らの将来にとってとても有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。



## 建築祭を終えて

3月18、19日に長野市のトーゴで「建築祭」が開催された。内容は第16回学生卒業設計コンクールと第15回文化講演会そして会員作品展と賛助会の展示を合わせたもので長野県クラブ初の試みであった。「市民に開かれたJIA長野県クラブ」という今年の目標は、ホテルという閉鎖的な空間から公共の場であるトーゴに会場を移した事、大学生に企画段階から参加してもらった事、などにより有る程度達成されたように思う。単独開催に比べ参加人数はかなり多く特に卒業設計コンクール審査会への参加者は未だかつて無い人数であった。しかし全てが始めて尽くしで有つ

事業委員長 荒井 洋

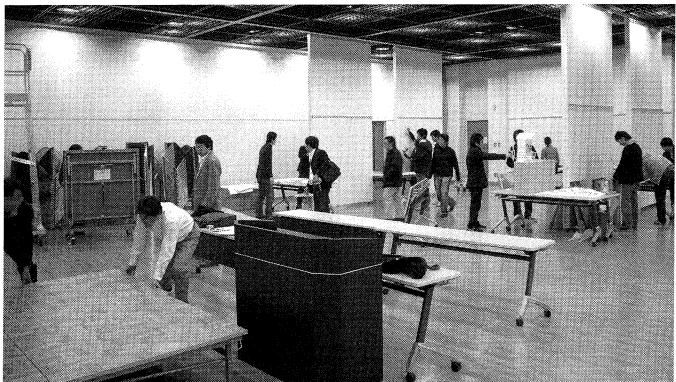
たため不手際が目立ったこと、二日間という長時間にわたり審査員の先生方を拘束してしまったこと、そして何よりも賛助会の方々に金銭的に大きなご負担を掛けてしまったことが反省点である。最後に設営運営を通してご協力願った賛助会と学生の皆さん、そして事務局の山本さんに御礼申し上げます。参加した会員の皆さんお疲れさまでした。



審査風景



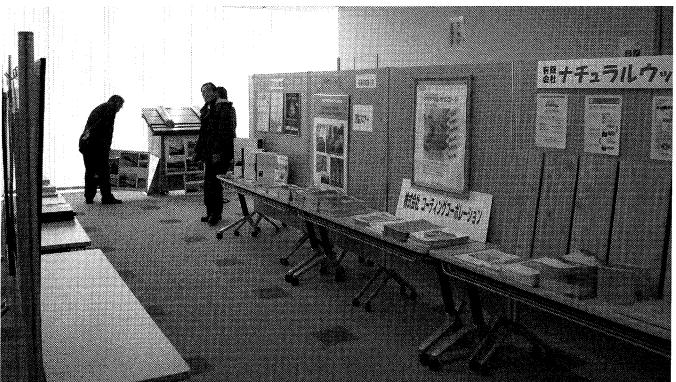
審査風景



会場作り



会場作り



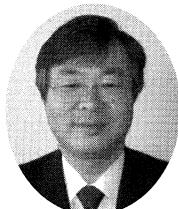
賛助会ブース



審査風景

### 「文化講演会」に参加して

伊藤 公績(伊藤建築設計事務所)



今回の文化講演会は、ぜひ参加したいと思っていた。というのも石井さんのご子息とは大学時代に同期で同じグループだったからです。その関係で雑誌でも石井さんの作品は見ていました。しかしやはり今回直接ご本人から設計についてお話を聞く機会を与えていただきその設計に対する思いをはっきりと了解することができてよかったです。建物が自己主張しないで周囲に溶け込む、あるいはやさしい心で創りあげること、それはまさに茶道の世界にも通じる何かを感じ、そこに強烈な個性を感じました。そして老いてまだまだ若々しさの感じられる石井さんのすがたを少しでも自分のものにしたいと思いました。やっぱり五十、六十は済垂れ小僧ですかね。

### 建築祭に参加して

伊藤 剛司(新和建材)



本催事への参画は今回が初めてでしたので、来場された皆様に近い視点で振返ることが出来ると言えますが、建築に於ける供給側の企業活動の指標を模索する上でも、貴重な催しであると感じました。具体的に各講義では、そもそもの建築需要全般という母体の特性を解すべく、講師の石井修氏には噓砲いて講義して頂きました。日々更新される情報を効果的に融合し、自身の業務に活かしたいと思います。

翻って私事、我が子らが狭い部屋で毎日遊び場所の取り合いをしております。個人的にも新しい住環境へのターニングポイントを迎えつつあります。公私とも本業界の動向から目が離せない訳です。

## 応援ありがとうございました！

長野県クラブ副会長（支部保存問題委員長） 川上 恵一

関東甲信越支部保存問題委員会主催東京大会は16回を数え、去る2月18.19日東京大学キャンパスで総勢170名もの参加者が集い、大成功の内に終えることができました。我が長野からもなんと20名を越える仲間が多忙の中駆けつけて



東京大学キャンパス・パネルディスカッション

頂き感謝感激でした。何度も繰り返す様に保存と創造は同等である、むしろ創造以上に重要であるという認識の

もと、テーマを《建築家と保存文化の現在(いま)》と名づけ4つのセッションで真剣な討論がなされ、「節目の総括」となりました。今回のテーマは私自身のライフワークでもあり地域にあって1人でも多くの仲間と思いを共有したいとの気持ちもあり、パネリストとしてもついپてしました。おかげでもう1年委員長をやるハメになりました。そもそも長とは人の話をまとめるのが役目であり、好き勝手に話す者が向いていないことは衆目の一致するところでしょう。ことここに至り我が事務所が潰れないことを祈るだけです。

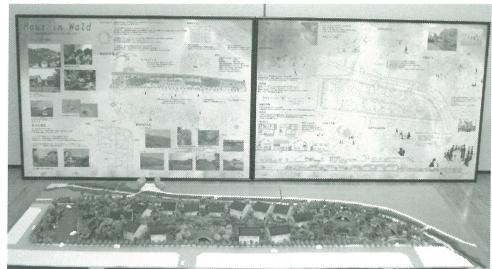


## 学生卒業設計コンクールを終えて

最前線で活躍されている建築家の先生方に審査していただきこの卒業設計コンクールを、当校では2年間の学びの目標として取り組んでいる。専門学校で研究し、考えたことを独自の建築で表現する難しさ、自分の考えていることを相手に伝える難しさも、この審査会で学生たちは学んだことだろう。今回を通過点として学生たち一人ひとりが建築に対して貪欲になり、さらに追求していくほしい。そして多くの建築家が育ってくれることを期待したい。今回、多く

上田情報ビジネス専門学校 建築CAD科 教諭 甘利 賢一

の建築家の先生方、お忙しい中ご準備並びに運営をしていただき、本当にありがとうございました。これから建築を志す学生たちにとって大変有意義な時間を過ごせたことに心より感謝いたします。



上田情報ビジネス専門学校(金賞)大日向裕美・作

## 第2回「学生課題設計コンクール」(群馬)に参加して〈特別賞〉

長野県飯田長姫高等学校 建築科 2年 朝原 ひかり

このコンクールに参加して沢山のことを経験しました。コンクールの代表に選ばれたとき、嬉しい反面・・・いままで一緒に作品を作ってきた友達に申し訳ない気持ちで一杯になりました。友達が頑張っている姿を沢山見てきた自分はみんな選ばれれば良いのにと思いました。学校代表、そして、長野県の代表としての責任はとても重く、期限がせまるにつれてそれは一段と重く感じました。雑になる作業、先生には注意されとても怖かったです。

このような賞をいただけたのは、けっして自分の力だけではありません。先生、部活の友達、クラスの友達そして加藤木さん。沢山のアイデアと励ましをもらいました。コンクールに参加して建築に対する興味がますます沸いてきました。将来、この経験を活かし自分の夢を実現させたいです。



## 賛助会員入会情報

| 会社名           | 代表者名  | 所在地 | 摘要        |
|---------------|-------|-----|-----------|
| 株式会社 塚田造園     | 塚田 豊彦 | 長野市 | 担当者・塚田 豊彦 |
| 株式会社 富士通商     | 藤井 宏人 | 中野市 | 担当者・平井 和広 |
| 有限会社 ナチュラルウッド | 南波 建一 | 上田市 | 担当者・南波 建一 |

### 編集後記

今回、建築祭の受付をしていて、いつも少し違うなと思った。若い女性や子供を抱えた親子連れの姿が目に付いたのだ。開催場所の違いでこうなったのか、それともやっぱりJIAが少しづつ世間に知られるようになったという事なのか…。いやいやそうに違いないと思いつつ、たばこをくゆらせながらゆっくりと2日間を思い起こしてみた。何はともあれ、スタッフの皆様方お疲れ様でした。..... 広報副委員長 水谷健治(新和建材)

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人／林 隆 発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

発行人／西沢利一

URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail [jia-naga@jeans.ocn.ne.jp](mailto:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp)